

令和4年度（2022年度）第1回熊本博物館協議会 議事録

令和4年（2022年）7月29日（金）10:00～11:30

於：熊本博物館講堂

出席者

【委員】

松下委員（会長）、鈴木委員（副会長）、鶴嶋委員、田中委員、宮本委員、早田委員、松永委員、水洗委員、松岡委員、荒木委員

【市】

竹原館長ほか博物館職員

〈次 第〉

- 1 開会
- 2 主催者挨拶
- 3 会長挨拶
- 4 議事
 - (1) 令和3年度（2021年度）事業報告について
 - (2) 令和3年度（2021年度）熊本博物館運営点検評価報告について
 - (3) 令和4年度（2022年度）事業計画について
- 5 その他
- 6 閉会

＜議事＞

【令和3年度（2021年度）事業報告について】

会 長：それでは、次第に従い、まず令和3年度事業報告について事務局から説明をお願いいたします。

館 長：それでは、令和3年度事業報告について、私から運営全般に関し総括的なご報告をさせていただきます。その後、学芸班及び総務企画班の各主幹から個別の報告をさせていただきます。令和3年度につきまして、令和2年度同様、令和3年4月27日から6月29日までの約2か月間、臨時休館を余儀なくされ、再開後も感染症対策を講じながらの運営となりました。また、当館職員につきましても保健所への応援要請もございまして、限られた人員での館運営を行われなければならないという厳しい状況の年でございました。ただ、そのような中、夏休み期間中には夏季特別展「銀河鉄道の夜－KAGAYA 星空の世界展－」を開催することが出来まして、多くのお客様にご来館いただきました。また、その他の企画展につきましても、予定どおり開催することが出来ました。このように、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、ウィズコロナとして新しい生活様式に沿った博物館運営を実践していく一年となりました。以上が簡単

ではございますが、私からの総括的な報告となります。続きまして、各主幹から個別の報告をさせていただきます。

— 学芸班主幹より令和３年度（2021年度）事業報告について説明 —

会 長：ただいまの報告について、委員の方々からのご意見、ご質問はございますか。

委 員：冒頭、会長がおっしゃられたとおり、収蔵庫が限界に近づいており、寄託、寄贈が増えているということで、前回の協議会のときに「必要とされる予算、そして収蔵スペースに関しては、しっかり市執行部のほうに求めていくべきである」というふうに私が申し上げておりましたが、令和３年度に予算とその収蔵スペースを確保する要求を市執行部に対して行ったのでしょうか。

館 長：収蔵庫についてお答えします。本日、新聞記事にも掲載されたとおり、当館ではリニューアルの際に収蔵スペースを倍にしたところですが、現在、おおむね８割程度は埋まっております。昨年度、委員からご指摘を受けておりますが、当館は特別史跡内にあるということで、敷地内での増築が難しいということもあり、館外の遊休地等の活用、または遊休施設の活用など、何とか確保が出来ないかということを、まずは教育委員会の中で、積極的に議論させていただいているところです。一言に収蔵庫といいましても、比較的環境変化に耐性のある収蔵物もございますし、非常に温湿度管理が必要な収蔵品もございます。それらを必要なもの、必要な量に応じて分類した上で、しかも十分な広さを確保するという事を考えまして検討を進めております。現在、中長期の視点に立ち、場当たりのものではなく、長い目で見て必要なもの、必要な環境を整えられるよう十分な検討と、かつ、スピーディーな対応に努めてまいりたいと考えております。

委 員：今の話を聞いて大変安心いたしました。先ほどおっしゃったとおり、温湿度の管理が必要な貴重なものは多数あると思います。そのようなものが今後、どの程度増えていくのかということの見通しが立たないという現状だと思います。そのため、年度ごとに常に収蔵庫スペースを確認し、余裕を持った収蔵環境を維持していくことが大切です。それが、この熊本の文化を保存維持していくことにつながり、その大事な役目を博物館が担っているということを教育委員会全体で認識をした上で、市執行部に対し予算と収蔵スペースの確保を求めていくというスタンスをこれからも続けていかなければ、貴重な資料を遺棄、破損し、未来につなげるべきものが失われてしまうことが起こりかねません。そのような認識のもと、博物館運営に取り組んでいただきたいと思います。収蔵スペースが８割埋まっているということならば、今年度中に体制を整えれば、来年度以降、安心できると思います。また、必要なものを輸送するにも費用が掛かりますので、そのような全体のスケールを確認しながら進めていただきたいと思います。本当に文化

系、教育委員会系の皆さんは予算を要求したら駄目だとか、市執行部に対し要求したら駄目だと勘違いしている方が多いので、堂々と要求をしていただくようお願いします。皆さんが要求していただかないと我々も応援出来ませんので、ぜひ、お願いをおきたいと思います。以上です。

会 長：館長お願いします。

館 長：ご指摘と応援等ありがとうございました。地域の文化芸術の計画的かつ確実な継承のためには、保存環境の改善及び確保はぜひとも必要であると思っておりますので、ご指摘を踏まえまして、より一層、積極的に取り組みたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

会 長：ほかにご質問はございませんか。

委 員：資料の収集と保存について質問です。昨今の博物館法の改正もあり、資料の定義が少し広がっています。物としての資料のほか、音声、画像だけではなく、デジタル資料の保存が必要になってきております。熊本博物館にはプラネタリウム番組等がありますが、それらの保存環境はどうなっているのでしょうか、お聞きしたいと思います。

事 務 局：委員ご指摘のプラネタリウム番組ですが、現在、館内で投映する番組は、投映期間が限定されるリースや買取りでございます。この分野につきましては、資料として保存する形には至っておりません。今後、ご指摘にございましたとおり、資料保存について検討してまいります。

委 員：熊本博物館は、オリジナル番組を作成する等、全国的に非常に貴重な活動をしていたということが知られています。その番組の手書きの資料やプログラムが電磁的記録として残っていると思いますので、もう必要がないと消してしまうと、物と違って後生には残りませんので、ぜひ、保存を検討していただきたいと思います。

会 長：ほかに質問はございますか。

先ほどのお話の中にありましたが、熊本博物館の独自の番組があるのですか。

事 務 局：熊本博物館独自の番組がございます。それを学習投映用として、小学校の児童が来館した時に投映しています。そういったものも年月が経過すると内容が古くなりますので、今後、新たに更新していくなど、取り組んでいきたいと考えております。

委員：報告を聞かせていただきましたが、コロナ禍の中で、本当に多岐にわたる事業をよく実施されていると思います。総合博物館ということで、非常に分野も広く、職員も限られた中で、本当に頑張られているということが正直な感想です。先ほどからお話が出ている収集保存ですが、これは美術館も同様で、本当にスペースがどんどん狭くなり、博物館と同じく特別史跡内にありますので、なかなか増築することも出来ません。また、建屋を上階に伸ばし、三階建てにすることも、文化庁の許可を得ることが難しく、どうしていくのかというのは美術館も同じような状況であり、博物館もいろいろご苦労されているとおもっています。質問ですが、この16ページにある資料について、収蔵件数が増えている中で、少し減少している分野もあります。減るということは、何か処分されたのか、また、他に理由があるのかを教えてくださいたいと思います。また、下段に補足で「上記は登録済みの点数で未整理・未登録の資料は含まない」とありますが、現在、調査研究しながら整理されている途中だと思いますが、どれぐらい未整理・未登録の資料があるのかを教えてくださいたいと思います。

事務局：減となっているのは歴史・美術の分野です。これは、整理・登録・再検討を続けるなか、過去に二重登録したものが判明したためです。それから、未整理・未登録の資料については、分野により偏りがあります。地質分野はかなり整理が進んでおり、未整理・未登録はさほどありません。動物分野は、昆虫や魚類の標本が多くあり、この倍とまではいきませんが、それに近いぐらいの未登録の標本があります。全体としては、まだ多くの整理登録すべきものがあります。また、博物館ですので、自然系の資料では採集したもの、また、人文系の資料では寄贈されたものと、資料は日々増えていきます。資料の整理・登録作業は頑張っ取り組まなければならないと認識しています。ただ、なかなか進んでいないというのが現状です。

委員：ありがとうございました。美術館もスペースの問題等、同じような課題を抱え、環境も似たようなところですので、引き続き連携していろいろと情報交換できればと思います。よろしくお願いいたします。

会長：私から1点、以前、夏の終わりごろに「名付け会」というものがありましたが、今はないのでしょうか。

事務局：現在も「自由研究相談会」という名前で行っております。以前は夏の終わりに「名付け会」として行っていましたが、現在は、夏休みの初めにどのような研究をするのかというテーマの相談を受け、そして、夏休みの終わりに、採取してきた標本の名付けも含め、自由研究をどのようにまとめていくかという相談を受けるという形になっております。

会 長：私の記憶では、博物館の目玉のイベントのような思い出があるものですからお伺いした次第です。

委 員：大変多岐にわたるを活動されており本当に驚きました。また、職員の方も大変だなと思います。教育普及活動は学芸員の方が中心となってやっておられますが、ここは総合博物館ですので、本当に様々な講座があって本当に楽しそうです。この講座は基本的には受動的な講座だと思いますが、この形式を永遠に続けていくのでしょうか。また、講座を卒業、修了された人たちが学んだことを土台に自立的に外部で活動し、再び熊本博物館に協力という形で戻ってくることも視野に入れていると思いますが、そのように自立し活動されている団体はありますか。もし無ければそのような活動を取組まれていくご予定はあるのかお尋ねします。生徒さん方の知識や人数にもよるとはと思いますが、そのような目的を明確にしていきたいと思います。

事 務 局：お答えします。かつてリニューアル前に、それぞれの講座の修了生が、勉強会のような形で、例えば考古学同好会とか、化石同好会、植物同好会というものを結成し、活動されていました。講座は私たち博物館の学芸員主導で行っていましたが、同好会は、講座を卒業された方が主体で活動されておりました。博物館は同好会からの依頼により学芸員が講師として関わるというスタンスでした。それがリニューアルの期間、博物館が休館したことにより、それぞれの同好会はあまり活動されていない状況だと思います。今後、私たちは、「裾野を広げる」「普及啓発に努める」という形で支援活動を取り組んでいこうと考えています。博物館講座を受けた人たちに積極的に同好会を作ってくださいと働きかけをするのではなく、自発的に受講生がそういうものを作りたいといった際には支援したいと考えております。

委 員：ぜひ活動しやすいように支援していただければと思います。時間がかかるとは思いますが、よろしくお願いします。

【令和３年度（2021年度）熊本博物館運営点検評価報告について】

会 長：続きまして、令和３年度（2021年度）熊本博物館運営点検評価報告に移ります。事務局からの説明をお願いいたします。

館 長：私から令和３年度熊本博物館運営点検評価報告につきまして、総括的な説明をさせていただきます。資料の冒頭部分、総括的なところを説明させていただきます。この評価報告は、平成３０年１１月に策定いたしました「熊本博物館リニューアルオープン後の運営方針」の中で、運営の検証と評価を行うことが示されており、今回その結果を当協議会に報告し、今後の運営の改善充実に資するため、ご意見を頂きたいと考えております。若干中身を申し上げますと、当館は、広域情報型、市民開放型、郷土立脚型、人間

密着型の博物館という4つの基本理念を継承しつつ、誰もが何度でも訪れたい博物館、知的好奇心に応えられる博物館たりうるよう、日々取り組んでおります。平成30年12月のリニューアルオープン以降もその理念に基づき「未来へつなぐ熊本の記憶－集める・伝える・創造する－」という全体テーマを掲げまして、魅力的な展示活動、楽しく学べる教育普及活動、各分野における調査研究及び収集保存活動など、総合博物館にふさわしい、多種多様な活動を積極的に展開しております。令和3年度の運営の点検と評価についてですが、令和3年（2021年）度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらない状況下で、いくつかの行事・イベント等は残念ながら中止せざるを得ませんでした。しかし一方で、夏季特別展及び4つの企画展につきまして、コロナ禍の中ではございましたが、計画通りに開催できたことは幸いでした。また、各分野の通年講座や学校と連携して取り組んでいる学校教育支援事業など、徐々に本来の博物館活動を取り戻すとともに、次の節目に向けて新たな一歩を踏み出すきっかけとなる年にもなりました。今後も当館は、長年蓄積されてきた熊本の歴史や文化、人と自然との深いかかわりを楽しく分かりやすくお伝えし、多くの皆様に親しまれる博物館を目指してまいります。引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。私からの総括説明は以上でございます。引き続き、各担当主幹から個別の報告をさせていただきます。

― 学芸班研究員及び総務企画班主幹より令和3年度（2021年度）熊本博物館運営点検評価報告について説明 ―

会 長：質問がある方はおられますか。ご質問がないようですので、次の議題に移らせていただきます。

【令和4年度（2022年度）事業計画について】

会 長：続きまして令和4年度の事業計画について説明をお願いいたします。

館 長：私からは総括的なお話をさせていただきます。資料をご覧くださいますと目次で1から6まで区分しております。展示、プラネタリウム、教育普及活動、行事・イベント、資料収集保存、それから、塚原歴史民俗資料館関係という6つの区分で、この後、ご報告させていただきます。本年度は、昨年度までの経験を生かしながら、可能な限り途切れのない継続的な館活動を続けたいという思いで取り組んでおります。それでは、主なものにつきましては、個別に学芸員からご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

― 学芸班主幹より令和4年度（2022年度）事業計画について説明 ―

会 長：私から質問をさせていただいてよろしいでしょうか。5ページ、先ほど説明がありました「ゆるゆる美術部」とはどのような講座ですか。

事 務 局：「ゆるゆる美術部」は美術工芸講座というように銘打つと、かなり堅く聞こえると思ひまして、親しみやすく、こちらが一方的に知識をお話するような講座ではなく受講者の方と一緒に、あまり熊本の知られていない美術について興味を持っていただくきっかけにしたいという講座内容にしております。そういう意味で「ゆるゆる」とあえてつけております。第1回目は6月の終わりに開催し、受講生の皆さんの感想をお聞きしたところ、やはり「ゆるゆる」とついているから来たという方が結構いらっしゃって、美術は堅く感じる方が多いのかなという印象でした。10月には企画展で熊本市域の指定文化財をいろいろ集める展示を計画しており、一般の方に、熊本市の指定文化財はどんなものがあるかとお伺いしたときに、すぐには思いつかないことが多く、せっかく指定されているにもかかわらず知らないという状況があることがわかりました。そこで第1回目はこういうものがありますよと、実際10月になったら実物を一緒に見てみましょうというような形で呼びかけをしました。こういう形で、年3回で少なめではありますが、少しずつ、一般市民の方に興味を持っていただくような内容として展開したいと思っています。

会 長：1回目の参加者は何人ですか。

事 務 局：1回目は14人です。博物館で座学を行ひまして、2回目は企画展の見学、3回目はまだ決めておりませんが、企画展の内容を踏まえた上で熊本地域の実際の街を歩き、寺社仏閣に納められているものを見に行くことを計画しております。

会 長：なかなか面白い発想で良いと思います。何かご質問があればどうぞ。

委 員：毎回、このような報告をいただくと、あまりの活動の濃さと対応の幅広さで、本当によく実施されていると思いますが、職員の皆さんはもうかなり疲労困憊でいらっしゃるのではないかと思います。地域の総合博物館は様々なことを引き受ける必要があり、要望も多く、それに皆さん一生懸命対応されており、当然その活動の領域も広さもあり、時間的にも労力的にも無理をされていることもあるのではないかと思います。先ほどの事業点検報告の中の事業の選択と集中、18ページのスクラップアンドビルドが喫緊の課題であるということは、かなり切実な問題ではないかと思います。そこで、実際にどのように対応したらいいのかというと、余りにも背負いこみすぎて、質的に、あるいは時間的に全てをこなしていこうとすると、やはり、そこには負担がかかってしまいます。これを軽減するためには、他の機関と提携していく、また、ネットワークを通じて専門的にされている他館と提携されたほうがいいと思います。それから、市民活動をサポー

トしていくとすると事業内容が大きくなると思いますが、逆に長い間、講座等に参加され、知識や経験が豊富な参加者の方もおられますので、そのような方にもお手伝いしていただくようなネットワークを考えることも必要ではないかと思います。自分の興味を追求するだけではなく、自立して館の活動に参加し博物館の役に立ちたいと思う方がいらっしやると思います。それから、オンライン化、デジタルコンテンツを活用しての情報発信であるような新たな活動、事業が増えていくと思いますが、これについてもネットワーク上で共有していく方法があると思います。なかなか、急な方向転換は出来ないと思いますが、中期的にそのようなことを考えながら、現在はネットワークの時代ですので、一緒に考えていくという方向性が必要ではないかと思います。

会 長：私も同感であります。こんなに働いて、皆さん大丈夫かなと思います。新しい働き方改革の中で、ちょっと心配もありますが、その点について回答をお願いします。

館 長：館の活動に対して非常に思いを寄せていただきありがとうございます。確かにご指摘にありますように、各界各層の多くの方に館の活動を知っていただくためには、これからも企画展などの展示会を通じて広く発信していく仕事もございますが、報告しましたように未整理の収蔵品も多数あるという状況の中で、学芸活動についても、地道に進めていかなければならない面もあり、そのバランスをどのように図っていくべきかということは非常に難しい課題だと思います。また、近年のイレギュラーな要因として、市職員の総力を挙げてコロナ対応を行っており、保健所に突発的に人員を派遣しなければならない状況もあり、少し仕事が追いつかない部分もありました。今年度も、そのような状況ですが、ご指摘をいただきましたボランティアを始めとして、多くの方からの人的な協力もいただきながら、バランスを取りながら、博物館を広く発信していく部分、調査研究を進める部分、それからご協力をいただく部分ということを組み合わせ、館運営を進めていければと考えております。今日いただいたご意見を参考にさせていただき、多くの方からのご意見も聞きながら、総合的に進めていきたいと思っております。

委 員：先ほどの意見に補足させていただきます。市民に開かれた博物館としては平塚市博物館が非常に有名です。平塚市博物館では、各分野で市民の方が博物館の活動に参加し、応援されていることは参考事例になると思います。それから、学芸員の資格を持っているが就職できていない方がたくさんいらっしやると思いますので、そのような方を熊本博物館の準学芸員的な立場として育てていくことも良いのではないかと思います。

館 長：アドバイスをいただきありがとうございます。そのような多層な方々のご協力も得ながら、また、改正博物館法が来年度施行され、デジタルアーカイブの活用を始め、文化観光に資する活動も必要になるという、新たな視点も求められておりますので、人と物、

私たちが持っている資源を生かしながら活動していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

会 長：熊本県ネットワークセンターの立場としてご意見をいただけないでしょうか。

委 員：県内博物館等との連携を通じて、県内どこに住んでいても、博物館活動に参加できるようにする「熊本県個別総合博物館ネットワーク構想」がありまして、それを実現することを目的で平成27年度にネットワークセンターは設置されております。本年で8年目になりますが、県内博物館等の学芸員を対象とした研修や博物館資料のデータベース化、あるいは博物館情報誌の発行及びポータルサイトによる情報提供に取り組んでおります。また、県内41の博物館等から成る熊本県博物館連絡協議会の事務局も拝命しております。私から熊本博物館さんへの期待を申し上げますと、今回、博物館法が改正されて、特に第3条の博物館の事業において、第2項で、他の博物館と相互に連携を図りながら、互いに協力するよう努めること、同じく第3項では、様々な機関団体と相互に連携を図りながら協力し、地域の活力の向上に努めることが新たに盛り込まれたところであります。熊本博物館は自然科学系ではもちろんのこと、他の分野でも、県内の博物館では飛び抜けて豊富な資源、専門知識を持った学芸員、貴重な収蔵品、予算、情報、運営に関するノウハウをお持ちであります。県内博物館をリードするものとして自負をお持ちだと思います。ぜひとも、県内トップの博物館として、他の博物館を牽引してもらえばと考えております。既に、県市連携での館内展示や、連携事業に取り組んでいただいておりますが、今後ともさらに中核としての牽引力に期待しております。私どもネットワークセンターもネットワークのハブとしての役割を果たしたいと考えており、今後、さらに県内博物館等々の連携協力を推進し、先ほど他の委員がおっしゃったように、余り負担にならない程度にネットワークを活用し、博物館事業の振興と地域の活力の向上に寄与していただければと期待しております。以上でございます。

会 長：館長お願いします。

館 長：ありがとうございました。熊本県ネットワークセンターさんには日頃より研修の実施や様々な分野でご協力をいただいております。また、膨大な収蔵品等をお持ちであり、多数の学芸員の方、教職員資格を持ちの方もご在籍であり、様々なご意見をいただいているところであります。私どもも、県内ないしは県外の博物館と、収蔵品や様々なノウハウの共有等、また、それぞれの融通等もさせていただいているところですが、ネットワークセンター様には、その橋渡し役調整役として、アドバイスをいただける貴重な存在としてご期待申し上げますので、今後ともご協力をお願いしたいと思います。

会 長：他にご意見はありませんか。

委 員：今日、私はバイクで来ましたが、熊本城の隣の駐車場にはバイクは駐車できません。子供たちは、どこに自転車と停めているのかと思いました。現在は自転車ブームでもあり、そして市内に点々とシェアサイクルの自転車置場を多く見るようになりました。これからはシェアサイクルの利用を前提とした館の準備、受入れが必要になると思います。今現在、自転車置き場があるのか、もし無かったら検討したほうがいいと思います。

事 務 局：熊本市の取組としてシェアサイクルの実証実験を行っており、博物館の北口の右側がそのスペースです。博物館もその実証実験の利用箇所となっており、現在、利用された方も数多くいらっしゃいます。委員のご意見のとおり、今後、自転車を利用される方の対応は重要であると思います。博物館自体もアクセス的には自動車が便利であり、もしくは市電を使うと杉塘の電停から歩いて5分で到着しますが、周知不足なところもあると思います。いろんな形で広報していますが、アクセスについても広報に力を入れたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

委 員：駐輪場はないのでしょうか。

事 務 局：北口正面玄関の両サイドに駐輪場はございます。

会 長：その辺りの広報もよろしくお願いいたします。
では、これで議案は終了しました。ご承認いただいたということで、よろしいでしょうか。

会 長：それでは議事についてはすべて終了いたしました。
委員の皆様、ご協力ありがとうございました。

— 閉 会 —